

特定非営利活動法人にゃおんプロジェクト 設立趣旨書

1 趣旨

2007年頃からのペットブームで特に猫への意識が高まり2012年頃には飼い猫の数が急増。SNSなどの普及も重なり最新の飼育数調査（2025年）では犬が682万頭に対し猫は884.7万頭と圧倒的に猫の方が多いたことが分かった。

一方、高齢化社会やさまざまな現代社会の背景でやむを得ない事情が発生し飼育困難となることも非常に多い。引き取り場所を見つけることが出来ず「処分への持ち込み」しか選択肢がないと判断する背景も後を絶たない。

地域猫、保護や譲渡や里親探し、野良猫対策などの活動が増えてきた中、生涯にわたり安全な場所で飼い主に代わって飼育する施設（生涯預かり、代理飼育）は求める側よりまだまだ少ない。

処分に持ち込むのは考えられないが一緒にも住むことが出来なくなり、行き場のない猫を抱えて悩む人々が多数存在している。

人も猫も安心して暮らせる社会を目指し、行き場がなく殺処分という悲しい選択をさせてしまうことがないようひとつひとつの大切な命を尊重し管理していくことを目的とし社会や地域へ貢献していきたい。

2 申請に至るまでの経緯

2012年より主に個人で野良猫対策（TNR活動、子猫の里親探し、地域猫の病気治療）をしながら多数の飼い主のない猫の「命をつなぐ活動」をする。

長く活動する中で子猫に比べ成猫は「ずっとのおうち」を見つけることが大変困難であることを痛感する。

また「譲渡型」の保護猫活動よりも「終生預かり型」の方が少ない事実もある。

特に引き取り手の少ない11歳以上の「老猫」「シニア猫」または「高齢による病気」や「介護が必要な猫」には環境がめまぐるしく変化することは望ましくない。最期まで安心して暮らせる終の棲み処を作り「命を守り看取る」活動をしていきたいと強く考える。

1つの命を生涯にわたり守り続けるということは設備環境、病気治療にもたくさんの資金が必要で活動を維持していくためには個人では限界がある。

1つでも多くの命を守るために将来的に専用の施設も目指すため社会的信用や人材の確保も必要不可欠であることから法人の設立が必要となった。

2026年5月18日

特定非営利活動法人にゃおんプロジェクト

設立代表者 （氏名）澤木里美

